

珈琲茶会 第16回（事後報告）

■2019年 1月27日(日曜日) 午後2時、岩田洗心館に集合し、移動。

■初座 午後3時～5時

☆本日のcoffee 高級インスタント珈琲

☆本日の茶菓子 まだ続くのか珈琲茶会(反省茶会) 於・Z邸

☆茶菓子提供者 三頭谷鷹史

■後座 なし。

主催 珈琲茶会倶楽部／岩田洗心館

■茶菓子解説（事後報告） 三頭谷鷹史

珈琲茶会の第1回が2016年2月、それからほぼ3年である。自由参加といっても参加者の多くが常連化しているので、今後は参加者の意見を聞きながら運営する時期になったと判断した。そんな意味での反省茶会である。

今までの運営方針について文章化したことはないので、少しだけ記しておきたい。まずは名称だが、まあ、「茶会」に擬した、ということである。内容的には「講座」と言ってもよいのだが、従来の講座は不特定多数に呼びかけるのが一般的だったし、情報を発信することや文化を広めることに重点を置く場合が多かったように思う。それが悪いわけではない。ただ、このネット時代、逆方向に舵を切った方がよいという思いに至ったのである。少数でもかまわないから、顔を付き合わせて創造的な「場」を造ったり受信したりする、その方が面白いのではないか。創造的な「場」のために協働し、楽しむのである。

また、従来の講座は啓蒙の臭いがして、どうかと思っていた。啓蒙したり、されたり。しかし、今は啓蒙どころか、自分の精神を普通に保つだけでも大変な、精神の乱世時代である。じゃあ、じっとしていればよいのかだが、一人で孤立というのも不幸すぎるし、余計に普通じゃなくなる。そこで人が集まり、語り合うことで、この時代を生きるための平衡感覚を養えないものかと考えた。で、茶会である。

もちろん私は茶道について詳しくはなく、数冊の本を読んだ程度だが、いろいろ問題があると推察する。だから形式ばった茶会を模するのではなく、かつてその「場」や「座」に成立したのであろう、人と人の出会い、創造的な会話、交際に思いを馳せたいと思う。利休以前からすであつたという、侘数寄の茶の湯の方が近いのかもしれない。当時は文字通りの乱世、精神の乱世時代とどこかで響き合うし、それに擬するのも一興ではないかと。

で、今回の事後報告。参加予定は16名だったが、風邪などで2人欠席となり、14名が参加。まずは久しぶりに自己紹介と近況などを語ってもらった。これがなかなか面白くて、気がつくとも1時間半を超え、残り25分。少し時間延長しての反省会となった。

結論だけを記しておきたい。

- もう解散、いつまでに解散、といった意見はなく、継続が決定。
 - 新たに世話人制を取り入れ、毎回1人か2人の世話人が茶菓子の内容を決める。世話人本人がトークをする場合もあれば、ゲストを招く場合もある。いずれの場合も交通費・資料代の補助として3000円～5000円を提供。
 - 開催日は原則日曜日、全員の日程を調整するのは無理なので、世話人と岩田洗心館、三頭谷が相談して決める。ただ、なるべく早く決めてお知らせする。
 - 開催時間は午後1時の方がよいという意見が多く、そのように決定した。
 - 参加者が常連化してきたとはいえ、基本的には自由参加である。義務や義理はなし。だから参加者が少ない場合もありうる。が、かまわず開催する。茶会草創期の客数は1～3人だったらしい。亭主を入れて2人～4人。まあ、我々の珈琲茶会も2人いれば成立し、新しい文化が生まれる、かもしれないと考えようか。数の問題ではなく、気持ちの問題である。
- (追記) 先日、次回の打ち合わせの時の雑談で、乱世、危機、世の中の動きに逆行、少数、内に引きこもる、しかし過激、等々といった会話の中で、連想ゲーム的に「竹林のアヴァンギャルド」という言葉が登場。まあ、本気と冗談の境目くらいの言葉である。